


第4回報告

<p>テーマ</p>	<p>「貧困問題を考える」 ～ 講話とフィールドワーク～</p>	
<p>日時</p>	<p>平成 26 年 10 月 14 日（火曜日） 午前 9 時 45 分出発、午後 4 時 50 分帰庁</p>	
<p>行き先</p>	<p>(1) 大阪府立西成高等学校 (2) 釜ヶ崎ディアコニアセンター喜望の家（大阪市西成区萩之茶屋周辺）</p>	
<p>講師</p>	<p>(1) 大阪府立西成高等学校教諭 肥下 彰男氏 (2) 野宿者ネットワーク代表 生田 武志氏</p>	
<p>参加者</p>	<p>20名</p>	
<p>事業の目的</p>	<p>現代社会においては、貧困問題・無縁社会・格差社会など多様な生活課題を抱え、ますます深刻化し、人間らしい生活が奪われつつあると言えます。貧困問題やホームレス問題に取り組む大阪市西成区に赴き、ホームレスを引き起こす原因等、講話とフィールドワークを通じて学ぶ機会として開催しました。</p>	
<p>実施内容</p>	<p>1 箇所目、大阪府立西成高等学校では教諭の肥下彰男先生に、同校の1年生が受けている「西成差別について考えてみよう」の授業を行っていただきました。この授業が西成高校で行うきっかけとなったのは、別冊の少女マンガに掲載された「西成住んどるし・・・」という台詞に出版社側が「*大阪の地名 気の弱い人は近づかない方が無難なトコロ」と欄外に書き、この漫画を読んだ西成区の中学生在が先生に相談し表面化したことがきっかけでした。また、西成区在住の方へのアンケート調査では「22.8%の人が西成区民であることによって差別された」経験を持つ厳しい実情を知りました。</p> <p>2 箇所目、通称釜ヶ崎と言われる大阪市西成区萩之茶屋に移動し、野宿者ネットワーク代表の生田武志さんからフィールドワークと講話を受けました。フィールドワークでは、毎日炊き出しが行われる公園、医療センター、福祉事務所、廃校となった学校跡地を案内していただき、わずか30分で1周できる地域に、主に日雇い労働者が利用する簡易宿泊所が200軒以上もあるという実態を知りました。また、職業安定</p>	

	<p>所では仕事にあぶれた人たちがひとときの安心を求め居場所としている姿を目にしました。講師からは、夕方になるとシャッターが閉められシェルターに行くか路上生活をするようになるという説明があり、フィールドワークでは厳しい現実と直面することとなりました。</p> <p>双方の講師から、支援策の1つとして毛布やおにぎりを渡しながら路上生活者と話をして回るという「子ども夜回り活動」の紹介がありました。「経済的な貧困」とともに「人との関係性の貧困」が問われる中、この心と心を通い合わせることのできる活動が非常に重要であり、貧困の連鎖を断ち切るために自分自身の問題として捉え実践している取り組みに参加者からは労働者個人の問題ではなく、もっと社会全体の問題として捉え、解決策を見出す必要があるのではないかという意見が出されました。</p>
<p>参加者からの感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校、釜ヶ崎ともによくわかった。 ・ 非正規雇用が増えて自分の知人もそのような状態の人も多く身近な問題だと感じている。 ・ 普段見ることができない現状を見ることができた。 ・ 以前から見学したかったので満足度が高い。 ・ 近くだが実際に見ることがない釜ヶ崎の厳しい現実を見ることができ良かった。 ・ 希望の持てる世の中にすることが大人の役割だと感じた。 ・ テレビ等で知ってはいたが現実に見て涙が出た。 ・ とても良い学びの場だった。現場を歩くのが一番だと感じた。尼崎の課題にも通じる大事な話が聞けた。 ・ 非常に重たく辛い現実を考えさせられた。問題解決に向けた視点やアドバイスがあればなお良かった。 ・ 日本の労働者の厳しい現実を見た思いがする。子どもたちに影響を与えることの大きさに暗澹たる思いを持った。
<p>成果</p>	<p>兵庫県宍粟市教育委員会より、同テーマで事業を企画するにあたりホームページを見たという連絡があり相談に応じました。</p>